

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100768		
法人名	有限会社 おおいし		
事業所名	グループホーム くつろぎ 2階		
所在地	釧路市愛国西2丁目7番10号		
自己評価作成日	平成 28年1月14日	評価結果市町村受理日	平成 28年3月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0174100768-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0174100768-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内
訪問調査日	平成28年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑い声と笑顔が溢れるホームを目指し、当たり前前の生活をおくって頂くよう、多少の制限があるものの飲酒や喫煙も支援し、出来る範囲で日常的に掃除や調理にも参加して頂いている。買い物についても近くのコンビニへ運動と気分転換を兼ねて徒歩にて一緒に出掛けるよう支援しており、スーパーにも車で買い物も行っている。町内の行事にも積極的に参加させて頂きホーム行事にも案内をして町内の方の参加も呼び掛けている。夏にはホーム前の畑で一緒に野菜をつくり2階ベランダでも野菜や花を育てて水やりも入居者様にお願いしている。季節ごとの習わしも大切に考えてお彼岸には「おはぎ」雛祭りには「桜餅」夏には「花火」夏祭りでは職員が仮装すると共に準備は入居されている方と共に行い一緒につくりあげている。来訪者には笑顔で挨拶を心掛け訪問しやすい環境づくりを目指している。普段から外出支援には取り組んでいるが月によっては「外出」強化月間として遠方にも出かけられるよう取り組んでいる。当たり前前のことであるが入居者優先を念頭に日々職員は一丸となって取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はいつでも見える場所に掲げている。会議等の会話の中で確認しあい常に心がけている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、散歩や外出時での挨拶、地域の行事、ホーム行事と相互参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で日常の入居者の状態とケア方法について伝えたりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内で町内会の人や包括支援センター、家族との話し合いをしていて意見等くみ取っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の担当者とは気軽に相談できるようになっており、今後は、管理者主任にも良好な関係を築くような機会に対しホーム長以外に対応をゆだねようと考えている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠は夜間のみで、勉強会や会議でも身体拘束の悪影響についても話し合っている。職員は常に身体拘束にならないよう心がけており、お互いに注意しあいながら取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や会議等で虐待について話し合い、認知症を理解し入居者の気持ちを理解することに努め職員同士の情報共有とお互いに注意しあい、虐待に繋がるのではという事柄があればすぐに話し合い検討している。		

グループホーム くつろぎ 2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全ての職員とは言えないが勉強する機会を設けているが活用機会が無いのが現状であった。今後必要とされる場合が出てくることが考えられるので研修をして入居者の安心生活を保持していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて説明させて頂き、不安があればいつでも相談に応じるようにしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事ある毎に声をかけて意見や提案要望等を表出しやすい関係づくりを目指して対応している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等や普段から意見提案をくみ取るようにしており、ホーム長や管理者から代表者に伝え理解を頂くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パート職員から正職員への転換、条件の変更等ホーム長から代表者に伝えて整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加は積極的に行い、内部研修もその時にあったテーマで2ヶ月に1回行っている。それ以外にも希望者がいれば、希望する勉強会をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長がグループホーム協会の役員をしている関係から「井戸端会議」という他グループホーム職員を交えての会を不定期に開いて情報交換と良好な関係づくりをしているが、もう少し交換研修等を多くしていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の場所、家族からの情報を聞き、本人との関わりを密にとり表情仕草言葉等詳細に記録し職員が情報共有することで不安などの解消に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談には入居予定フロアの職員が行っており、ご家族からの情報を得ている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報を収集し可能な限り希望要望に沿っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護される側介護する側」ということは考えず出来る事はお願いし、教えてもらうことは教えてもらっているが、時には業務優先となっている時があるので気を付けて行く		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院付添をお願いしたり、行事などにも参加して頂いたりしている。来訪された時には本人の状態状況をお伝えし家族での時間を大切に頂いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人宅へ出かけたり、友人が来訪されたり、馴染みのラーメン屋に出かけたり、賀状のやりとり等支援していた、加齢や病気の進行、身体の衰え等により難しくなっているので今後の検討課題と思われる		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	疎通がとれない入居者で他者との良好な関係づくりが出来ない人には職員が関わっている。入居者同士で新聞を届けたりゲーム等での関わりを設けたり誕生会では皆でお祝いし、会話できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている人はお見舞いに行ったり、ご家族とも気軽に話しかけている。賀状のやりとりや等している。釣った魚等届けてくれたりとの関係の家族もいる		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	喫煙や飲酒、好きな番組鑑賞、手作業、物づくり、ベランダでの家庭菜園等日常的に支援し、アセスメント等により把握に努め会議等で検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の基本情報を誰でも読める様にファイルしている。ご本人やご家族との会話でも把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来るだけ入居前の生活継続を目指し、日誌などにも記録したり、会議等でも情報を交換共有し把握に努めて支援している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の日頃の言動から考察したり、家族にも聞き取りしたりしており職員皆でアセスメントをして作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌や記録、申し送りノートや気づきノート等活用しており、会議等で情報交換し介護計画の見直しに繋げているが、内容量としてはまだまだ不足していると思う		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の付添、美容室への外出や外食に出かけたり風呂上がりのビールや晩酌等支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物に出かけたり、回覧板を届けたり、喫茶店、食事処、銭湯等に行っている。時には近くの理容室や初詣にもでかけたりしている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の病院受診継続や往診可能な協力医師を勧めたりしている。又状態変化があるときには受診先に手紙を書いたり、職員が付き添ったりと支援している		

グループホーム くつろぎ 2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師来訪時に状態状況を伝えて助言をもらったり、必要時には電話でも助言を受けている。訪問看護師とは気軽に相談できる関係である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には可能な限り退院後の受け皿になることを伝え、また、退院後にお見舞い時等に情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時・入居中・状態変化時に説明させて頂き、本人・家族・介護職員・医療と支援に取り組んでいる。今まで事例は無いが終末期の方の宗教に関しての事柄にも柔軟な対応が可能であると思う。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車要請の手順は事務所に大きく掲げている。勉強会や会議等でも時折検討している。緊急時はいつでも管理者・ホーム長との連絡指示受け可能である。職員の入れ替えや忘れてしまっていることもあり、勉強会等の定期的な開催が必要と思われる		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回以上行っている。地域の方にも非常時の協力同意は頂いている。時には机上でのシミュレーションも行っている		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各自気を付けているが時折不適切な言動もある、勉強会や会議、直接その場での指導、連絡ノートでの指導等お互いに注意し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎回ではないが、更衣時の衣服選び、食事の量やメニューの選択、等声をかけるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ希望に沿うよう努めているが時として職員都合の案内や声掛けになっている時がある。毎月のフロア会議で検討したり、その場で指導したりしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に選んで頂いたり、好みの色の物を用意したりしている		

グループホーム くつろぎ 2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材切りや味見、おしぼり用意、食器拭き等して頂いている。柔らかくしたり小さく切ったり、個人的なメニュー替え等している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人日誌に記載して皆が気をつけるようにしている。好き嫌いが多い方には別メニューで偏らないように配慮している。水分については上手く勧められず不足していることも時折ある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のお茶飲用の勧めをしている。義歯洗浄介助者は比較的小おこなえているが全員毎食後はおこなえていないので今後検討していく		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツより布パンツへの変更、及び排泄チェック、個人々の言動やパターンを把握し早めのトイレ案内に繋げている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック、食物繊維の多い食材使用、水分摂取量の配慮、牛乳やヨーグルトなどの乳製品使用、時には腹部マッサージ等に気を付けている。下剤常用者は排便状況等考えて調整している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は決まっているが、その中でも出来るだけ本人が希望する時間に入浴して頂いている。曜日などにはこだわらず出来るだけ週2回以上の入浴を目指している入浴をしながら歌を歌ったり会話を楽しむ等の支援をしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床就床時間に固執することはない、自室で休まれたり、フロアの長椅子で休まれたりして頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を誰でも見られるようにファイルしてある。薬の変更時には申し送りしているが、全員がしっかりと薬については悪しているとは言えない。各自努力しているが薬についての勉強が必要		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物、外食、銭湯等の支援、囲碁将棋の支援、飲酒・喫煙の支援、軽作業の手伝い等して頂いている。毎食時のおしぼり用意が自分の担当と思って行ってくれている人もいる		

グループホーム くつろぎ 2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	断られることも多いが買い物・外食・散歩・喫茶店等に出来るだけ外出支援には努めている。月によって外出強化月間と銘打って普段なかなか行けないようなところにも出かけようとしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	9人中4人が多少の金額を自己管理している。外出時の支払いも同行職員に頼む場合が多いが出来る人には自分で支払って頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の了解の基、希望があれば電話をかけて頂いている。賀状書きも勤めている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬は乾燥強度だが温度計湿度計、加湿器を設置し換気にも取り組んでいる。季節の習わし事の飾り物や皆で作った作品も掲示している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時に取りあいになることもあるが長椅子2脚と畳の小上がり様のものであり個々人で過ごされている。食席についても出来るだけ気が合わない者同士は避けている。パズルや塗り絵、物づくり等数人が同テーブルで行っている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の用意をお願いしている。家族の写真や置物なども置いている。ご本人が安全かつ使いやすいように配置なども検討している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂場などには大きく表示、車椅子の動線確保、歩行器代わりの椅子の動きやすさの追求、夜間の時間の見間違いが多くなった方に向けて居室から出て来た時に見やすく解りやすい位置に時計を設置した。		